

令和3事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果【別紙】

1. 令和2年度において、市の評価が「2」であり業務改善に至った事項

No	内容	評価	改善理由
19	各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施	3	コロナ禍ではあったものの、大阪クラシックへの協力、プラネタリウムホールを利用した他県の星空映像配信、展示室なども利用した謎解きゲームの実施 など、各館の利用を行った。
22	各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定	3	科学館、美術館、東洋陶磁美術館などの観覧料受容度調査を実施。令和2年度に実施した中之島美術館の調査結果も含め、これら結果から各館の利用者層、魅力、類似他館との比較などの情報を共有し、全体を俯瞰しながらの広報展開に活かすよう努めた。また、各館独自に実施している来館者アンケートを機構内の他館と共有することも行った。 事務局で各館のCRSの取組みを四半期ごとに取りまとめ、機構内で情報を共有し、広報や事業活動の実施状況や、見直し、新規手法立案などに利用するデータをを得ることができた。
23	生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開	3	生涯学習センターと連携し、情報誌「いちょう並木」への執筆、情報提供、講演会の実施など行った。各館でも近隣の施設と独自に連携を行い、情報発信を行った。 また、共同実施したミュージアム連続講座は、定員50名に対して4倍以上の申し込みがあるなど、内容の良さのみならず、広く周知が行き渡る広報の成果が表れた。 大阪城天守閣、大阪くらしの今昔館と連携を図って実施しているキャンパスメンバーズ制度参加校へ、展覧会事業などの広報を図り、利用促進を図った。
29	さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得	3	鉄道事業者、近隣ホテル等への情報提供やタイアップ事業などを積極的に実施し、観光客への周知を図った。
35	こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施	3	作成したワークシートを配布するとともに、コロナ禍を勘案しウェブ上での掲載などを行った。 また、対面行事に関して、オンライン化に切り替えて実施することとした。科学館では、感染症対策を取りながら、大阪市内小学校向けの出張サイエンスショーなどを実施した。

41	ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進	3	ボランティア活動等は、コロナ感染症対策のため、来館者等に対する実働は少なかった。 ただし、今後の活動の再開に備え、実地もしくはオンラインでの研修を実施した。
42	各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定	3	各館で活動するボランティアや友の会のメンバーとのオンラインでの打合せを行い、活動にあたって意見交換を実施した。一部、対面での実施有り。
43	さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励	3	美術団体へ施設を貸出し、館長賞授与などの協力、館のオンライン設備を使ったボランティアによる普及事業実施の機会提供などを行うことができた。
53	法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価	3	年度評価の項目及び評価結果の記載が誤りのないよう各館への指導を行った。 また、令和3年度業績評価は、中間評価後、各館との内容確認を行い、年度計画の遂行状況を管理した。

2. 令和2年度において、市の評価が「2」であり、業務改善に至らなかった事項

No	内容	評価	自己評価
78	環境に配慮した取組みの指標化及びその公開	2	コピー用紙の再生紙購入・利用や、配送業者に対する大阪市グリーン配送適合車の使用を求めるなど3Rに取り組み、環境配慮することを公開しているが、指標化が行えていないため。

3. 令和3年度の法人自己評価が「2」であり令和4年度改善が必要と考える事項

No	内容	評価	自己評価
----	----	----	------

11	コレクション（常設）展における展示替え	2	各館の常設展示における活動は滞りなく実施できたが、観覧者数が年度計画策定時における目標数に対して乖離する結果となったため。 美術館：コレクション、特集展示など 10 本を実施予定のところ、11 本実施した。 しかしながら、コロナの影響が少なかった時期も含め、通年の来館者数が伸び悩み、目標とする人数に届かず、収益も上がらなかった。 東洋陶磁美術館：コロナ陽性者が少なかった時期にも来館者数が伸び悩み、目標とする人数に届かず、収益も上がらなかった。 科学館：コロナ陽性者が少なかった時期にも来館者数が伸び悩み、目標とする人数に届かず、収益も上がらなかった。
12	自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化	2	美術館の「豊臣の美術」、自然史博物館の「アンダーグラウンド展」など、緊急事態宣言の影響でほぼ開催できなかった企画展があるが、その他の各館の自主企画展において、観覧者が伸びず、収益も上がらなかった。

4. 令和3年度の法人自己評価が「4」であり目標を上回ったと考える事項

No	内容	評価	自己評価
8	各館の施設の計画的な整備及び改修	4	美術館、及び東洋陶磁美術館の大規模改修の実施設計等を機構事務局も含め検討を重ね、より来館者が利用しやすい施設とする実施設計が完了した。また、自然史博物館講堂、科学館のプラネタリウム改修、歴史博物館の展示場における有機酸対策など各館とも困難を伴う大規模な施設整備に関する業務が大きく進んだため。
9	調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得	4	科学研究費補助金については、代表研究 29 件・分担研究 16 件、合計 45 件が進行しており（内令和3年度の新規採択は、機構全体で 8 件）、令和3年度の採択総額は 33,644 千円に上り、機構で行っている研究内容や質が学術的に認められた。 また、文化庁からは「地域と共働した博物館創造活動支援事業」として 11,976 千円の支援を得た。

16	各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携	4	各館とも機構内各館の資料の貸借や協働で、事業や研修を行うなど連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。特に市立美術館と中之島美術館は調査から展覧会の開催まで協働し、実施した。また、自然史博物館と科学館で機構として初の共同開催となる特別展「アインシュタイン展」を行った。 中之島美術館の開館にあたり、機構内各館の広報も兼ねた広報を行い、大阪駅での大型シート広告、JR 東日本主要 30 駅への大型広告設置、Osaka Metro との連携による肥後橋駅への大型シート設置、地下鉄全駅のポスター掲示を実施した。
46	開館記念企画展の準備	4	開館記念として NHK 及び読売新聞社との共同出資による展覧会「Hello, Super Collection 超コレクション展」を実施し、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介することができ、来館者数は目標を大きく上回った。 【期間】2 月 2 日～3 月 21 日、開催日数 42 日 【来館者数】126,310 人（予算目標：92,000 人）
47	開館に向けた機運の醸成	4	開館に向け、Twitter、Facebook、Instagram アカウントと YouTube チャンネルを開設のうえ、最新
			情報を都度更新することで、イベントや展覧会情報をはじめ、その準備の様子を含めて最新情報の発信を行ない、開館に向けた機運の醸成を図った。また、開館に向け外部機関と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施した。 なお、連携先は下記のとおり。 【開館プレイベント、中之島地域連携】 大阪大学、アートエリア B1、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会、中之島まちみらい協議会、中之島三井ビルディング、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、国立国際美術館 【研究連携】インダストリアルデザイン・アーカイブズ協議会、パナソニック株式会社、シャープ株式会社、積水ハウス株式会社、公益財団法人日本デザイン振興会 【展覧会連携】 国立国際美術館、東京ステーションギャラリー、国立新美術館、九州国立博物館、大分県立美術館、東京国立近代美術館

51	包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	4	機構発足後、継続して独自採用や民間採用等、職種を問わず多様な人材の確保に向け、採用活動を積極的に行っている。なお、障がいを持つ方についても翻訳アプリを使った採用手法を検討・実践し、採用面接を実施した。（採用後、本人都合により辞退）
68	法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保	4	機構における会議体として、「理事会」「経営会議」「総務連絡会議」「学芸連絡会議」を定期的を開催し、各階層において迅速な意思決定や情報共有等を図った。 特に機構発足後の懸案事項であった「経営会議」の位置づけについて、「館長等任務分掌規程」及び「経営会議規程」を整備することで、理事会と経営会議の役割を明確にし、業務執行責任の一層の醸成を図った。